



(安間勉さん(84歳))

今日(2020年7月31日(金))は、袋井東コミュニティセンターに来ました。この度、10年間の文献調査などを経て、郷土誌「袋井市東地区国本 久津部村の寺社 江戸初期から正観寺までの寺と七つ森神社」を編纂された安間勉さんにお会いするためです。

安間勉さんは現在84歳、地域に現存する資料を後世に伝える活動に取り組む「久努村史を調べる会」の会長でもあります。

何故、10年かけて郷土誌を編纂したのですか?とお尋ねすると、

「もともと 歴史書を読むことは好きでした。仕事を辞めてから古文書を読み始めました。その面白さにのめり込みました。そうした中で、久津部村の歴史を伝える書籍がほとんど見当たらないこと。また、いろいろな地元の郷土誌を読んできましたが、相互に内容を突き合わせると、理解できない点も感じられました。そこで、自分なりに歴史資料を読破し、時代・人物・内容・意味を比較し、整合性を取りつつ、自分自身納得できるものにまとめ上げたのです。」



(郷土誌:袋井市東地区国本 久津部村の寺社 江戸初期から正観寺までの寺と七つ森神社)

- 当郷土誌は、
- ・江戸時代の久津部村の話
  - ・江戸初期の久津部村の寺
  - ・御朱印の寺
  - ・久津部村の寺が変わる
  - ・久津部村の新しい寺
  - ・お寺との一年
  - ・お寺・正観寺の建立へ

- ・久津部村の神社
- ・妙覚院(明覚院)について
- ・争い事が起こる
- ・話し合いは決裂
- ・寺社奉行がなくなる
- ・寛政十年(1798)
- ・幕末から明治へ

の14章からなり、4つの余話といくつかの写真・表を挿入し、A4サイズ42ページにまとめてあります。作成した本は、公民館や図書館に寄贈し、またお世話になった友人・知人に配付したほか、市内正観寺には備え置きがしてあるとのことです。

編纂した感想をお聞きすると、

「一区切り付いて、達成感があります。資料の正確性の確認や新しい資料を探すなどの地道な作業を積み重ね、やり切ったという気持ちです。時間はかかりましたが、一度も大変だとは思いませんでした。」

とのことです。



(袋井市菅ヶ谷横穴群: 昭和26年当時) (横穴=古代の古墳)



(鎌倉市大仏様の前にて記念撮影)

安間勉さんは、お父様の赴任先である香川県高松市でお生まれになり、その後お父様のご実家である静岡県袋井市に戻ってこられました。以来、袋井市国本広岡を地元として活躍されてきました。

寺社について、興味を持ちだしたのは昭和26年(1951年)8月、中学3年の時に田中元峰先生(円通寺の和尚様)に連れられて、友人数人と共に袋井市内の史跡調査をしてからです。この時は、大門大塚、法多山、宇佐八幡、菅ヶ谷横穴群、浅間神社、油山寺と古墳、久野城などを回り、非常に楽しい時間を持たれたようです。

また、同じ夏休みに田中元峰先生(円通寺の和尚様)の引率で、東京へ1泊2日で旅行に行き、鎌倉では大仏様や円覚寺を訪問し、東京では国会議事堂や国立博物館を訪問されました。このことは、今でも明瞭に覚えており、その後の寺社に関する興味を更に強く持つベースになったそうです。



(東京都国会議事堂の前にて記念撮影)

安間勉さんは平成9年(1997年)に38年間勤務した小学校を退職し、地元の連合自治会長や公民館長を約10年間務められました。その後、郷土誌の編纂に取り掛かられました。

今後は、

「郷土誌は完成したが、資料が見つければ、また新たな形にまとめて発表したいという思いがあります。(久努村史を調べる会)としても調査結果をまとめる予定です。

一つでも多くの地域の歴史を伝えたい。」と熱き「思い」を語っておられます。

高校生時代は、冬の間駅伝の練習で走っていたことが健康の元であったという安間勉さん。

現在郷土誌編纂も終了し、一段落。晴耕雨読の毎日とのことです。

読書が趣味で、今読んでいるのは、

・伊曾保物語

・月と6ペンス

とのことです。

晴れた日は畑仕事をし、好き嫌いなく野菜中心に何でも食べ、健康を維持されているようです。



(袋井東コミュニティセンターに飾られている「袋井市長訪問新聞記事と郷土誌」)

郷土の歴史というものは誰かが古い文献から掘り起こし、目の前に提供しないと、多くの方の目には触れません。

古文書のままではほとんどの方が手に取らないし、読めないし、読まないものです。

その意味で、今回の安間勉さんの郷土誌編纂は画期的なことであり、若い方々が郷土を知る手掛かり

になればと思います。

また、中学生3年の夏に田中元峰先生の引率により、袋井市内の史跡調査をし、その後田中元峰先生と共に1泊2日で鎌倉・東京の寺社巡りを行われたことが、今回郷土誌を編纂する動機になったとおっしゃっています。  
70年前の恩師の指導を今、郷土誌として「成果」にまとめ上げられたこと。  
誠に素晴らしいことであり、教育のもつ「力」を感じずにはられません。

安間勉さん、奥様とお二人で、いつまでもお元気で。

安間勉さんが編纂された郷土誌に興味のある方は

安間勉（電話＝0538－42－2850）

までご連絡をしてください。

（2020年8月24日）

取材：磐田・周智地区担当 生きがい特派員 戸田孝